

論文審査の要旨	
筆頭著者（学位申請者）氏名	辰野 健太郎
主論文の題目 および 掲載・審査委員 （申請者以外の氏名）	題 目 Age-Specific Impact of Procedural Time on Outcomes after Endovascular Therapy for Large Vessel Occlusion: Insights from the K-NET Registry （脳主幹動脈閉塞に対する血管内治療後の転帰に及ぼす手技時間の年齢特異的影響：K-NET レジストリからの洞察）
	掲載誌 Cerebrovascular Diseases 2025 Jul 29;1-10.
	主査 村田 英俊 副査 三村 秀文 副査 出雲 昌樹
[論文の要旨・価値] [緒言] 脳主幹動脈閉塞による急性虚血性脳卒中に対する血管内治療（endovascular therapy：EVT）は、再開通率および臨床転帰を改善する標準治療として確立されている。一方、EVT 後転帰に影響を及ぼす因子は年齢によって異なる可能性があり、特に穿刺から再開通までの手技時間（procedural time）の臨床的意義が年齢別にどのように異なるかについては十分に検討されていない。本研究は、Kanagawa Intravenous and Endovascular Treatment of Acute Ischemic Stroke Registry（K-NET レジストリ）を用い、年齢別に EVT 後転帰とその規定因子を明らかにすることを目的とした。[方法・対象] K-NET 登録 4,061 例のうち、発症前 modified Rankin Scale（mRS）0-2 かつ内頸動脈または中大脳動脈（M1、M2）閉塞を有する 2,381 例を対象とした。年齢を<60 歳、60-79 歳、≥80 歳の 3 群に層別し、90 日後 mRS 0-2 を主要評価項目として多変量ロジスティック回帰解析を行った。[結果] すべての年齢群において初期 National Institutes of Health Stroke Scale（NIHSS）、Alberta Stroke Program Early Computed Tomography Score（ASPECTS）、および再開通成功が良好転帰の独立予測因子であった。一方、手技時間は 60-79 歳群および≥80 歳群では有意な独立予測因子であったが、<60 歳群では有意な関連を示さなかった。年齢別モデルでは、高齢になるほど手技時間延長に伴う転帰悪化の勾配が急峻であり、特に 80 歳以上でその影響が顕著であった。[考察] 高齢者では虚血耐性や側副血行の低下などにより、手技時間の延長が転帰に強く影響すると考えられる。一方、若年群では複雑手技により手技時間が延長するものの、時間遅延の影響は高齢群ほど明確ではなかった。[結論] EVT 後転帰には再開通が最も重要であり、手技時間の臨床的影響は年齢依存的であった。特に高齢患者では手技時間短縮が極めて重要である。[価値] 本研究は、EVT における時間効果が年齢依存的であることを示し、特に高齢患者において手技時間短縮が極めて重要であることを明らかにした点で、年齢に応じた治療戦略の最適化に重要な示唆を与える。	
[審査概要] 審査は主査、副査 2 名と陪席者 2 名のもとで行われた。約 30 分間の発表では、脳主幹動脈閉塞に対する血管内治療後の転帰に及ぼす手技時間の年齢特異的影響について、K-NET レジストリの解析結果とその臨床的意義について説明された。質疑応答では、年齢別解析の妥当性、若年群における統計学的解釈、手技時間と転帰との関係の病態生理学的背景について質問がなされ、概ね適切に回答された。今後の研究の継続と発展についても意欲が示された。	
最終試験結果の要旨	
[研究能力・専門的学識・外国語（英語）試験等の評価] 申請者は、本研究と関連領域に関する十分な経験と専門的知識を有しており、研究目的や研究内容についても良く理解しており、今後独立した研究者としての研究遂行能力を有すると判断された。研究発表、質疑応答を通じて真摯な態度に終始し、研究に対する熱意も感じられた。英語読解力は指定された引用文献の一部をその場で和訳し、一定の読解力があると判断した。以上より、辰野健太郎氏は学位授与に値すると評価した。	